

養護教諭部会

I. 研究の概要

1. 研究主題

健康について考え、心豊かに自分らしく生きる子どもの育成をめざして

2. 主題設定の理由

近年の社会環境や生活様式の急激な変化は、児童生徒の心身の健康に大きな影響を与え、健康課題を多様化させている。

特に、ICT（情報通信技術・通信技術を活用したコミュニケーション）関連機器がめざましい発展を続け、大人だけではなく子どもたちにも広く浸透し、授業での利用も進んできている。しかし便利である一方で、情報の氾濫によって不確かな情報に翻弄されたり、SNS によるトラブルも多く見られる。また、視力低下や直接的なコミュニケーションの不足による人間関係の希薄化等、デジタル化による心身の健康上の新たな課題も出てきている。

また、コロナ禍の学校生活で制限を余儀なくされた子どもたちへの心身の影響は計り知れない。本来なら触れ合って遊び、顔を合わせて語り合い、協働して何かを創り上げる活動が制限され、集団での達成感や信頼感、自己肯定感を高める教育が難しくなっている。そのような中、不登校傾向の子どもは増加し、子どもの貧困やヤングケアラー・虐待等見えないところで苦しんでいる子どもたちの問題も増加傾向にある。さらに、バリアフリーや特別支援、LGBTQ 等へ配慮した教育環境づくりがなかなか進まない現状もあり、改善が急務である。

このように複雑で変化の激しい社会の中、養護教諭として子ども一人一人を大切に受容し、職務の特性を生かし対応や支援の在り方を探求することが重要と考える。常に「養護」とは何かを問い続け、子どもの健康と人権を守り育てる養護実践を深めていく。また、確かな連携方法を模索し、家庭や地域社会・教職員に対する効果的な情報発信の方法を検討し、様々な健康課題について家庭と学校が課題を共有しながら学校全体・地域社会全体で対応していく必要がある。

以上のように、複雑かつ多様化した子どもたちの健康課題に対し養護教諭の視点を大切にしたい取組が必要と考え、標記の研究主題を設定した。

研究の経過

平成 26 年度からこの研究主題のもと、各ブロックは子どもたち個々の健康・発達課題に寄り添い、対応や支援の在り方を研究し実践してきた。

しかし、令和 2～4 年度については新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、市町村ブロックの部会や第二次研究協議会、理論・実技研修会を以前のような形式で実施できず、活動を十分に行うことが難しい 3 年であった。こういった状況の中でも、本来 2 年の研究計画を 3 年に延ばし、研究の内容や方法を試行錯誤しながら研究を深めることができた。

令和 8 年度は、多くのブロックで 2 年継続研究のまとめの年となる。コロナ禍を経て、これまで私たちが感じてきた子どもたちの健康・発達課題が一層顕著になっている中、子どもたちが自分らしく生きる力を育むために、養護教諭の特性を生かした効果的な実践と発信が必要であると考え。今後も各ブロックの研究を進め、その成果を全会員で共有することを目指し、拡がりをもった視点で研究を推進していきたい。

3. 研究内容

<研究内容 1>

子どもたちの実態を把握し、問題点を明確にする。

<研究内容 2>

子どもたちが自己肯定感をもち、自分らしい選択をし、人とのつながりを大切にしながら生きていけるよう、支援の在り方を検討する。

<研究内容 3>

保健室で気が付いた子どもたちの実態について、教職員・家庭・社会にどのように発信し連携していくのか、その方法を検討する。

4. 研究方法

- (1) 会員一人一人の日常実践に基づいた市町村ブロックの共同研究を推進する。
- (2) 実技研修会及び理論研修会を開催し、日常実践や今日的な課題解明につなげていく。
- (3) 各ブロック間の連携を深め、より一層、研究が深まる取組をする。

II. 研究の経過と成果

1. 全体の実践の経過

(1) 役員研修会・推進委員研修会の内容

- 4月15日 今年度の業務・研究計画の確認
- 5月9日 研究協議会・理論研実技研・予算
- 6月23日 実技研について
- 7月14日 研究協議会・理論研実技研・ブロック研究レポート
実技研の内容交流について・次年度以降の研究サイクルについて
- 9月16日 研究協議会・次年度研究・『石狩の教育』・ブロック反省について
- 11月6日 研究協議会反省・理論研反省について
- 1月29日 研究協議会反省・研究活動の反省・次年度へ向けて

- ・ ブロック情報・部会情報の発行
- ・ 推進委員研修会ごとのブロック交流
- ・ 部会ホームページの更新

(2) 実技研修会

- 7月8日(火) 北広島市 ふれあい学習センター 夢プラザ
「子どもの体を守る！ 姿勢とバランスを整える実践ワークショップ」
講師： 公益財団法人 北海道理学療法士理事 青山 花奈恵 氏

(3) 第二次研究協議会

- 10月17日(金) 恵庭市立恵庭中学校
 - ・ 全体会 (レポート発表) ・ 分科会
 - ・ 理論研修会 「不登校や別室登校を含む児童生徒の理解とその対応」講師： 北翔大学 教育文化学部 心理カウンセリング学科 准教授 入江 智也 氏

2. 各ブロックの研究と成果

〈 北 広 島 ブ ロ ッ ク 〉

1. 研究主題

子どもの心によりそった保健室をめざして～子ども一人ひとりを大切にしたい情報発信～

2. 研究の経過と成果

情報を適切に選択し、自分に合った方法で自分自身の健康を維持していける子どもを目指し、保健室に来室する生徒一人ひとりへの情報発信と支援について研究を進めてきた。1年次は、子どもたちの興味関心の高いテーマを中心に資料作りを行った。また、子どもたちの支援の方法について学ぶため、北広島市のSSWの内田氏を講師に理論研修会を行った。その後、作成した資料を用いて情報発信を進めた。2年次は、子どもたちの反応や変化をもとに、資料の内容や自分たちの関わり方について検証した。資料の情報を伝えるだけではなく、養護教諭が一人ひとりに合わせた声かけを行うことで、子どもたちが自分の生活に取り入れようとする前向きな姿がみられ、私たちの関わり方の重要性を再確認できた。しかし、一時的な行動変容はみられても、継続するのが難しい子どもたちも多いので、様々な方法で繰り返し伝えていく必要性を感じた。

3. 研究のまとめと今後の方向性

様々な情報を正しく伝えることは大切である。しかし、子どもの特性や発達段階、家庭環境など、様々な背景があっても望ましい方法はわかるが行動に移せない子どももいる。情報発信をする際は、情報を受け取る子どもたちの気持ちを十分に尊重しながら伝え方を工夫していく必要があることがわかった。また、養護教諭が子どもによりそい、一緒に考える姿勢を持つことで、子どもたちが安心して自分のからだや心と向き合うことができていた。伝えることはあきらめず、子どもたちと一緒に考える姿勢を今後も大切にしていきたい。

< 当 別・ 新 篠 津 ブロック >

1. 研究主題

「健康について考え、こころ豊かに自分らしく生きる子どもの育成をめざして」
～救急ハンドブックの作成を通して、よりよい保健室運営について検討する～

2. 研究内容

今年度は、救急ハンドブックの「内科編」を作成して研究を進めてきた。

- ① 内科症例に焦点を当て、症状発生時の重症度判断や観察の観点、対応の手順などを整理し、実践に生かせる救急ハンドブックの作成に取り組んでいる。
- ② 部会員それぞれの経験や、搬送時の医療機関からの助言を振り返るとともに、医学的エビデンスに基づいた文献を活用しながら検討を進めている。
- ③ 救急搬送の基準が明確になっているか、一般教職員にもわかりやすい表現になっているかを確認するとともに、色使いやイラストの配置、文字の大きさなど視認性の面からも検討した。

3. 研究の成果と課題

実用的な救急ハンドブックの作成に向けて、部会員同士が意見を交流しながら検討を重ねる中で、情報が更新されたり、新たな知見が得られたりするなど、学びを深める機会になった。今後は、作成した救急ハンドブックを共通理解として活用することで、養護教諭個人の経験に頼らず、明確な根拠に基づいた判断が可能となり、教職員間の連携も円滑になることを期待したい。

< 江 別 ブロック >

1. 研究主題

「子ども一人ひとりを大切にする保健室」 ～健康相談活動を通して、養護とは何かを考える～

2. 研究内容

1年目の研究を終え、「校内体制づくり」「外部機関との連携」「養護教諭自身のカウンセリング技術の向上」という課題が見えてきた。3年次研究の2年目である今年度は、見えてきた課題に対し、傾聴・受容からの次の一手を学ぶための実技研修会、校内の整え方や外部機関との連携、カウンセリング技法を意識して対応したことなどをグループで交流し、課題解決に向けて研究を進めてきた。

今後はさらに、外部機関とのつながり方や若者の支援実態を学ぶための理論研修会を実施し、外部機関との連携だけではなく、中学卒業後の若者支援の実態やキャリアカウンセリングについても学びを深めていく。

3. 研究の成果と課題

私たち養護教諭は「傾聴・受容」を意識しながら子どもたちの話を聞くことが多いが、その後の声かけや対応に苦慮しているという悩みも聞かれた。7月に実施した「実技研修会」では、その後の一歩前に進む対応などを学ぶことができた。保健室で子どもたちとの会話の中で使える技法をたくさん紹介していただき、子どもたちとのかかわりに生かす相談技法を学ぶことができた。

今後は、課題として挙がっていた「外部機関との連携」に対し、理論研修会を通して必要な支援につなぐことができるよう学びを深めていき、各校の実態に合った校内体制づくりや外部機関との連携を模索し、研究仮説に迫りながら研究のまとめを進めていきたい。

< 恵庭ブロック >

1. 研究主題

「一人ひとりの子どものいのちと健康を守る学校保健をめざして」
～養護教諭の学び合いでよりよい実践を子どもたちに～

2. 研究の経過と成果

私たちは昨年度までの3年間の研究から、自己免疫力の大切さや多様な性を認め合う姿勢などが子どもたちの心に残っていると実感した一方で、自己肯定感・幸福感が低く、孤独感が強いことや不登校・自殺は増加しているといわざるを得ない現状があると感じた。

そこで今年度は、子どもたちの実態を把握し、自己肯定感を高めることに配慮しながら、必要な対応について互いに学び合い自分のものとしていくことで、より良い実践をすることができると考えて研究を進めている。

1. 理論研修会の開催

日時：7月10日（木）15：15～16：30 場所：恵庭中学校
演題：「①教育相談の基本的な考え方 ②性に関わる児童生徒への支援と対応」
指導者：恵庭中学校教諭 藤代 裕 教諭

2. グループ研究協議

研究方法「A. 研究内容に沿った3つのグループ」で現在2回実施

3. 今後の方向

今年度は研究になかなか時間がとれずにいるが、少ない時間でも学びの多い研究となっている。

今後は「A. 各グループの研究内容について交流」「B. 小学校2、中学校1の3グループでの研究」を行う予定である。

< 石狩ブロック >

1. 研究主題

ICT機器がもたらす子どもへの影響と健康課題
～健康課題に対するアプローチ方法を模索して～

2. 研究内容

今年度は3年研究の1年目となる。上記の研究主題のもと、子どもたちが使用しているICT機器についての学びを深め、健康課題を把握することを目的とした。まずは2つのグループに分かれ子どもが熱中しているSNSにはどのようなものがあるのか、保健室視点でSNSに熱中している子どもの様子など各校の実態を交流した。子ども目線で考察することにより課題がみえてくるのではないかと考え、挙げられたSNSの中から実際に使用してみることとした。また、理論研修会として8月20日（水）に石狩市教育委員会主催の、東北大学応用認知神経科学センター助教・榎浩平氏による「スマホはどこまで脳を壊すか」に参加した。

3. 研究の成果と課題

2つのグループに分かれ、日頃保健室でみている子どもたちの様子を交流した。その後、交流の中で挙げられたSNSの中から養護教諭が実際に使用した。その結果、全てのアプリに共通して、「時間を忘れてのめり込んでしまう」という感想が多かった。子どもが使用しているSNSを実際に使用してみたことで、アプリの面白さや依存しそうな点、課金したくなるしかけ、危険な部分など様々な点に気付き子ども目線で考察することができた。

理論実技研修会では、様々なデータをもとに、スマホがもたらす悪影響について知識理解を深めた。脳の鍛え方や子どもにスマホ利用について指導する際のポイント等も学ぶことができた。

今後は、子どもの実態から考えられる健康課題に対してよりよいアプローチ方法を模索していくとともに、各校で実践していく。理論研修会で深めた知識を生かして研究を進めていきたい。

< 千 歳 ブ ロ ッ ク >

1. 研究主題

健康について考え、こころ豊かに自分らしく生きる子どもの育成をめざして
～ICTの活用を通して～

2. 研究の経過と成果

1年間の研究で、Google フォームやCanvaの基本的な使い方の研修と、各校で取り組んでいるICTの活用について交流を行った。研修はそれぞれ講師を迎え、実際にタブレット端末を操作して行い、Google フォームやCanvaのスキルを高めることができた。また、研究を始める前に各校でのICTの活用状況を調査し、ICTに苦手意識をもつ養護教諭が多いことが明確となったが、研修を全て実施した後には苦手意識をもつ割合が減少し、ICTの活用に積極的な意見が多くあげられたのは、研究の成果である。

3. 研究のまとめと今後の方向

ICTに対する苦手意識を研修を通じて克服し、日常的に活用する第一歩を確実に踏み出すことができたと考える。一方で、個人情報管理やICTに慣れるまでに時間がかかること、養護教諭のICTの研修の少なさなど、多くの課題が浮き彫りになった。

私たち養護教諭は、日々多くの業務に追われているが、ICTを活用することで業務の効率化が図られ、子どもたちへの支援時間の確保を実現できると考える。今年度はICTの基礎を学ぶ1年であったが、明確になった課題を解決しつつ今後はさらに活用の幅を広げ、業務の効率化や業務時間の短縮につなげていきたい。

Ⅲ. 実技・理論研修会

7月8日(火) 14:30～

於：北広島市 ふれあい学習センター 夢プラザ

1. 実技研修会

テーマ 「子どもの体を守る！姿勢とバランスを整える実践ワークショップ」

講師 合同会社Life ライフ・オステオパシー・センター 青山 花奈恵 氏



<開催の概要・成果>

良い姿勢と悪い姿勢に関する講話と実技を通して、子どものより適切な見立てについて学びを深めることができた。良い姿勢とは、柔軟性・支持性・運動性の3つが大切であり、集中力や記憶力、持久力アップにつながるということがわかった。また、姿勢が崩れやすい子どもの中には、身体の真ん中の線がどこかわからなくなっている子どもが多いため、正中線を意識しながら交互運動を取り入れることがよいことを学んだ。

2. 理論研修会

テーマ 「不登校や別室登校を含む児童生徒の理解とその対応」

講師 北翔大学 教育文化学部 心理カウンセリング学科 准教授 入江 智也 氏

10月17日(金) 13:30～

於：恵庭市立恵庭中学校

<開催の概要・成果>

不登校に対する初期対応・予防については、気づくことが未然の対応であり、気づくためには、アンケート形式のアセスメントを実施するなど、積極的な仕組みづくりや、典型的な兆候の理解が必要であること。事後の対応としては、戻りにくくさせる要因を段階的に解決していくことが求められる。不安の階層を考え、一段ずつ対応し、一段のチャレンジを終えたところでできたことを共有することも大切である。不登校対応はどうすることがよりそうことになるのかを考えることが大切。心の問題には正しいか・正しくないかは最重要ではなく、正しいとはどういうことなのかを一緒に考えることが必要である。また、別室登校がどんな意味を持つもので、どんな場所なのかを考え、組織として共通認識し、体制を整えることの重要性を再認識することができた。



IV. 実践交流

テーマ別の分科会を設定し、討議の柱に沿って研究討議を行った。今年度は学校規模や経験年数等も考慮し「保健室小学校」「保健室中学校」「救急処置」「健康相談」の4つの分科会を設定した。その中でブロックの研究も深まり、環流できるような研究と関連付けた討議を行うことができた。また、日常の執務に関する疑問や課題を取り上げ、実りある分科会となった。

掲示物・便利グッズ紹介では、体や心についてわかりやすく、子どもたちに興味をもってもらえるような様々な工夫が施されたものばかりで、大変参考になるものとなった。掲示物が健康教育を担う1つのツールであることを再認識することができた。

1. 分科会

各分科会は、事前に設定した柱をもとに話し合いを行った。どのグループも活発な討議が進められ、実践に役立つ内容であった。各分科会の内容については分科会記録集で共有した。



【保健室（小）4グループ】

- 1、小学校の保健室の在り方
- 2、保健室からの支援、連携の取り方をどう進めていくか

【保健室（中）2グループ】

- 1、中学校の保健室の在り方
- 2、保健室からの支援、連携の取り方をどう進めていくか

【救急処置 2グループ】

- 1、学校で行う救急処置の在り方
- 2、学校における救急体制及び危機管理体制をどのように進めていくか

【健康相談 2グループ】

- 1、保健室における相談活動の在り方
- 2、個別支援・行内体制の充実を図るためにどう進めていくか

2. 掲示物・保健室便利グッズの紹介

ブロックごとに掲示物紹介を行った。掲示物作成に至った経緯や思い、工夫した点や子どもたちの反応等を紹介し、大変有意義なものとなった。



V. 部会研究の成果と課題

1. 成果

「健康について考え、心豊かに自分らしく生きる子どもの育成をめざして」の研究主題のもと、各市町村ブロックが具現化した主題を設定し、研究を推進してきた。各ブロックで明確になった子どもたちの健康課題は様々であり、課題解決への手立ても多種多様なものであった。今年度は「健康課題へのアプローチ方法」「健康相談」「発信方法」「救急処置」をポイントに、各ブロックで実践を行ってきた。どのブロックも共通して子どもたちが自己肯定感をもち、自分らしい選択へ導く支援の在り方を探ることができた。

2. 課題

次年度以降もこの研究を継承し、各ブロックが研究主題を具体化した研究を展開し、深化する研究を進める必要がある。各ブロックで子どもたちの実態を把握し、問題点を明確にして研究を推進していきたい。また、養護教諭の視点を大切にしたい支援の在り方を、どのように教職員・家庭・社会に発信し、連携していくことが望ましいのかを検討していきたい。第二次研究協議会では、研究計画を具体化した分科会の構成と討議により、会員一人一人の課題の解明に結びつくより一層の研鑽の場をめざしていきたい。

(文責 川口 真里亜)